

社会教育指導員の部屋

2022.7月

生涯学習課 社会教育指導員 吉澤 隆

「人権感覚を錆びさせないために」

佐久市人権同和課では、毎年、佐久市内の学校へ新任または転入された教職員の皆さんに向けた人権同和研修会を開催しています。

開催にあたっては、新型コロナウイルスの影響を考慮して昨年度から、少人数の対面方式と、YouTube配信によるリモート方式を取り入れています。

本年度は、佐久市人権同和教育推進員の原英正先生に講師をお願いしました。先生からは、「差別や人権侵害は人間が作ったもの」と題して、長年教育現場に携わった経験などから、幅広くお話をいただきました。



はじめに、「人権感覚は、包丁と同じで、錆びたり鈍くなったりします。時々磨くことが必要です。これが人権同和問題の研修を実施する理由です。」との話がありました。そして、部落問題や人種差別などの解消されていない人権侵害、女性差別や障がい者差別のように世の中の努力で解消されつつある差別、高齢者や子どもの虐待、インターネットを利用した誹謗・中傷などの新たに生まれ

た人権侵害など、様々な人権問題があることについて学びました。

続いて、道徳学習で副読本「あけぼの」をどのように使うか、資料『『わたしの道を』～高橋くら子の生き方～』に基づいてお話をしていただき、また今年が水平社宣言から100年の年に当たることから、あらためて部落差別の問題についても問いかけていただきました。

講演の結びに、「いのちの駅伝」のDVDをみんなで鑑賞しました。

「いのちの駅伝」とは、当時の望月高校で“いじめ”を受けて命を絶った高校生がいたという悲しい出来事から、いじめをなくすこと、命が大切なものであることを伝えるために始まった活動です。昨年で24回となった「いのちの駅伝」は、いじめや差別の根絶に向けて、多くの方の協力で活動が継続されています。合併前の地区で始まった活動ではありますが、今では望月解放子ども会参加者や賛同者から、佐久市内の各小中学校へメッセージが届けられています。新しく佐久市に赴任された先生方にもこのような活動があることを知っていただくことが、同和問題をはじめ様々な人権教育に必要なことだと考えています。

佐久市では、人権同和課主催、または地区公民館で実施される市民ふれあい学級などで市民の皆さま向けに人権講座の開催を予定しています。日頃から人権問題を自分の事として身近に捉え、人権感覚を錆びさせない為にも、各種の人権同和教育講座に参加してはいかがでしょうか。